

# 注目のあわら市選挙区 低調な最大選挙区福井

県議選展望第1弾

動きが鈍い4か月後に迫った県議会議員選挙。  
西川知事誕生と共に育った3期以下の同期生県議の著しい  
レベル低下でその技量が今問われている  
現職を脅かす強力なリーダーシップを持ち政治力旺盛な新人  
の出馬が今だからこそ期待される。お隣石川県には30代  
県議が3人いるが本県はなし。 (文責・嵯峨十郎)

## 小粒に成り下がった県会

現県会是我が身本位のサラリーマン議員が半数を超え、理事者と馴れ合いで激論を交わすことも少なく際立った論戦はなし。「自民党県政会」大派閥の流れに身を委ね己の選挙しか頭になく、小棹博・今村重治氏時代のような活気と議員力は昔話となった。西川知事、川田ラインに引っ張られ県民の審判を得たはずの県議が物も言えずぬるま湯に浸かり3分の2が超小粒に成り下った現状を打破する有力新人が県会に求められている。

若干30歳で県議初当選、平成2年には全県1区の衆議院選に出馬し本県初の戦後生まれの代議士となり、7期目の山本拓大先生(昭和27年生まれ)。大野市議、県会議長を務め、

## 新人名乗りを挙げる

政争のまち、越前市と敦賀市。  
越前市今立郡南条郡選挙区(定員5)の選挙区は現職、元職、新人と複数の候補者の動きがある。実力者小泉県議の死去により欠員となっている地盤で何が何でも再起を願う宮本俊氏が出馬する他に、参議院4期目でめでた

く参議院議長の大要職にある山崎正昭氏大先生(昭和17年生まれ)。他にも、県議から市長に転身した現職の河瀬一治敦賀市長、山岸正裕勝山市長、牧野百男鯖江市長、松崎晃治小浜市長、奈良越前市長。県内9市のうち5市に名市長が生まれた。